

要望内容とあるべき姿

大分類						
中分類						
小分類	最終提言書 対策一覧No	要望集落/施設	あるべき姿	対策内容	自助/共助/公助	
A.防災対策						
避難所の整備						
避難所の新設・高台移転・適正配置の検討	①・⑪	住用、笠利、市集落、西仲間、名瀬勝、知名瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ上で安全な場所にあり、衛生的で誰もが安心して過ごせること。 ・最低限1~2週間暮らせる環境が整備できていること。 ・停電・断水時でも使用可能な機能が確保され、特に対策が必要な人が安心して過ごせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の現状把握、避難経路の整備、孤立防止・かさ上げの見直し。 	公助	
トイレ設備の整備・改善(循環式、マンホール、段ボール等)	⑦	住用、笠利、あまみFM、医師会、西仲間、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・設備改善(空調、トイレ、蓄電) 	共助	
避難環境の向上(空調、バリアフリー、Wi-Fi、寝具等)	⑦・⑨	笠利、医師会、西仲間、名瀬勝、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル・旅館との事前協定(空部屋提供)やレンタル会社との連携(トイレ・発電機リース) 	公助	
避難所の運営・管理体制の改善(鍵管理、情報の迅速な共有等)	②	笠利、あまみFM、医師会、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点にたった避難所運営ガイドラインに基づく自主運営 	共助	
ライフラインの確保						
非常用発電機の設置・燃料確保・稼働時間延長	⑧	笠利、あまみFM、医師会、西仲間、名瀬勝、佐仁	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立した場合でも支援が来るまで不安なく過ごせる状態であること。 ・最低72時間自立可能な体制が構築されていること。 ・停電が起きないように無電柱化が進み、復旧状況が「見える化」されていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族分の飲料水、カセットコンロ、蓄電機器等の個人備蓄 	自助	
水道・電気・ガスの安定供給と代替手段の確保(湧水活用含む)	⑧	笠利、医師会、西仲間、名瀬勝		<ul style="list-style-type: none"> ・発電機、太陽光、湧き水活用による多重的な水源・電力の確保 	共助	
通信環境の改善(Wi-Fi、電波、衛星電話の導入等)	⑨	住用、医師会、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンや海上からの物資補給の検討 	公助	
情報伝達・安否確認						
防災無線・ラジオの整備(トンネル内での受信環境の整備)・更新および聞き取りやすさの改善	④	あまみFM、市集落、西仲間、名瀬勝、知名瀬、佐仁	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達がスムーズに行われ、地域の支え合いのもと「逃げ遅れゼロ」の避難が行われること。 ・個々の安否確認がタイムリーかつ自動で反映できること。 ・通信障害時でもスターリンク等を活用し、スマホが常に使える環境であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ラジオの全戸配布、FMアンテナ整備の確実な周知 	公助	
安否確認体制の構築と個人情報の活用	⑥	住用、笠利、医師会、市集落、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・LINE等のデジタル活用と自治会の声掛け・戸別訪問を組み合わせた確認体制 	共助	
デジタル手段(SNS、LINE、ネット水位計)を活用した情報共有	③・⑨	あまみFM、西仲間		<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部の迅速な開設と警察・消防等との縦横の密な連携 	公助	
案内看板の設置(多言語対応含む)と伝達体制の強化	②	笠利、名瀬勝、佐仁		<ul style="list-style-type: none"> ・案内看板の現状把握、表記の見直し、活用できる防災アプリの調査 	公助	
備蓄品の管理						
食料・飲料水・医薬品の備蓄充実と点検更新	③・⑩	住用、医師会、市集落、西仲間、知名瀬、佐仁	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な人に必要なモノが迅速かつ継続的に届き、多様なニーズに対応していること。 ・自助・共助・公助が連携し、孤立時でも支援が届くまで粘れる状態であること。 ・誰もがどこに何があるか一目で分かり、配布ルールが確立していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の数量・期限・保管場所を平時から一元管理し、定期点検と更新を行う 	公助	
備蓄倉庫の整備と管理体制の強化(コンテナ活用等)	③・⑩	住用、笠利、あまみFM、医師会、市集落、知名瀬		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・施設ごとの必要に応じた分散備蓄の実施 	共助	
				<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭への災害時持ち出し防災セット(リュック)の備えの指導 	自助	
河川排水対策						
河川の浸漬、拡幅、排水能力の向上	⑭	住用、笠利、あまみFM、医師会、西仲間、名瀬勝	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・地域が連携し、街全体で水害を防ぐ「流域治水」の考え方が浸透していること。 ・氾濫を出来るだけ防ぐ対策と、被害を軽減する対策が多層的に行われていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防のかさ上げ、浸食対策、排水機場(ポンプ場)の整備 	公助	
排水ポンプの設置と遊水地の整備	⑭	西仲間		<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼダムや雨水貯留浸透施設の活用、危機管理型水位計による水位情報提供 	共助	
土砂の堆積防止と定期的な清掃管理	⑭	住用、医師会、西仲間、名瀬勝		<ul style="list-style-type: none"> ・堤防のかさ上げ、浸食対策 	公助	

要望内容とあるべき姿

大分類						
中分類						
小分類	最終提言書 対策一覧No	要望集落/施設	あるべき姿	対策内容	自助/共助/公助	
B.災害復旧						
防災教育・意識向上						
地域住民向けの防災訓練の実施と改善(参加促進含む)	②	住用、西仲間、名瀬勝	・地域に特化した危険性を皆が同じレベルで理解し、行動できること。	・実践的訓練や体験学習を通じて、日常的に自助・共助の実践力を育む	共助	
自助・共助の意識啓発と防災知識の普及(教育プログラム等)	②・⑬	住用、笠利、医師会、西仲間、名瀬勝、佐仁	・高齢者や要支援者がどう避難すべきかを知り、若い世代が役割を持っていること。	・各種会合を利用した避難要領の教育	共助	
道路の整備・改修						
避難路の整備、冠水対策(かさ上げ)、孤立防止策	⑭	住用、あまみFM、市集落、西仲間、佐仁	・道路被害を迅速に把握し、復旧進捗が「見える化」されていること。	・主要道路の優先復旧と、旧道等を利用した物資補給ルートの確保	公助	
道路の拡幅、崩落防止、通行止め情報の迅速な提供	⑭	住用、笠利、市集落、名瀬勝	・避難経路が定期的にチェックされ、危険地区の避難が早めに行われること。	・国・県等への早期要望と予算確保	公助	
土砂災害対策						
山間部や道路沿いの土砂崩れ防止策の強化	⑥	あまみFM、医師会、名瀬勝	・危険箇所の把握とハザードマップが周知され、早期避難体制が確立していること。	・砂防・排水整備、情報伝達の強化、住民訓練の継続	公助	
交通手段の確保						
避難時の渋滞対策(一方通行化等)と車両避難体制	⑥	住用、笠利、あまみFM、医師会、西仲間、名瀬勝	・どの手段を活用すべきか誰もが判断でき、指示系統が明確になっていること。	・緊急車両や物資輸送を最優先とした道路改修と、公共交通の段階的再開	公助	
高齢者・要配慮者および孤立地域への輸送手段の確保(船舶・ヘリ等)	⑥・⑫	住用、笠利、あまみFM				
災害後支援						
災害後の医療・介護支援体制と物資供給の迅速化	⑫	住用、医師会、市集落	・被災者の安否確認を最優先し、現場の混乱なくスムーズな作業が行われること。	・住宅修理・資金支援・相談体制・心のケアなど切れ目のない支援の整備	公助	
被災者の生活再建支援(住宅応急修理費用の確保等)	⑫	住用、笠利、医師会、佐仁				
C.地域連携・コミュニティ						
ボランティア連携						
ボランティアとの連携強化および活動促進	⑤・⑬	住用、笠利、あまみFM、医師会	・受け入れ窓口が一括化され、状況が全体へ適切に伝えられていること。	・登録・配置・連絡を集約し、指示系統の統一と安全管理を徹底する	共助	
人材育成・体制整備						
消防団の活用促進と地域防災組織の機能強化	⑬	住用、笠利、市集落、名瀬勝、佐仁	・自主防災組織メンバーが報われる仕組みがあり、担い手が増えていること。	・行政・学校・企業・住民が役割を共有し、合同訓練や研修で実践力を高める	共助	
専門人材(コーディネーター、ケアマネ等)の育成と確保	⑬	あまみFM、医師会				
高齢者・単身世帯支援						
高齢者・要配慮者の個別避難計画の作成と情報共有	⑥	住用、笠利、医師会、市集落	・情報が共有され、誰も取り残すことのない避難が行われること。 ・災害時に自動で個人位置情報が確認できる仕組みがあること。	・平時からの名簿化・見守り体制と、小集落での個別避難担当(誰が誰を運ぶか)の明確化	共助	
避難支援体制の構築と緊急連絡網の整備	⑥	住用、笠利、あまみFM、医師会、市集落	・被災者が自分の状況に応じた避難所へ避難できる環境が整備されていること。	・災害時のみ探知システムがONになるようなシステム構築と、医療機関との調整	公助	
行政との連携						
行政・警察・医療機関等との情報共有・協力体制の強化	⑫	住用、笠利、あまみFM、医師会、西仲間、名瀬勝	・地域防災計画と各集落の防災計画がリンクし、全員が内容を共有していること。	・計画策定時に集落の不足内容を補填する予算を確実に繰り込むこと	公助	
要望書の提出、防災会議の開催、地域住民との意見交換	⑫・⑬	西仲間、名瀬勝、知名瀬	・自主防災組織を中心に、災害時に助け合える体制が構築されていること。	・平時から合同訓練や研修を重ね、役割分担を明確にした協力体制を確立する	共助	
特有課題への対応(環境保護等)	⑪	笠利、市集落、名瀬勝、知名瀬、佐仁	・行政が主体となった福祉避難所の環境整備(立地場所含む)が整備されていること。	・医師会/事業所と連携した体制作りを推進する	公助/共助	